

全国大学書道学会

会報

31

令和6年(2024)
2月1日発行
全国大学書道学会

本会発展のため末永きご指導を

理事長 永 由 徳 夫

本会は、創立六十五年となりました。会員の皆様には、本会の活動に対し、日頃より一方ならぬご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

跡見学園女子大学にて開催された大会(九月十七日)では、中国人民大学藝術学院・祁小春教授を招聘し、ご講演いただきました。王羲之研究の過程で直面した諸課題をいかに解決していったか鋭く切り込まれつつ、ユーモア溢れる語り口で、私達を魅了してくださいました。講演や書作展開催に向け、早期からお骨折りいただいた横田恭三先生に、衷心より御礼申し上げます。

また、「台湾研修旅行」(十二月二十七日～三十日)には二十七名の参加があり、盛況裡に催行されました。今回は台湾全島を巡る企画で、台南大学との学術交流、國立故宮博物院南院の見学、國立故宮博物院・中央研究院歴史語言研究所傅斯年圖書館での特別観覧等、本会ならではの充実した研修旅行となりました。今年度一連の周年企画を契機に、国際学術交流を拡充させていきたいと存じますので、ご助勢の程、どうぞよろしくお願いいたします。

本会では、令和六(二〇二四)年度より「長期会員優遇措置」を導入いたします。これはひとえにベテランの先生方に末永くご指導を賜りたいという思いから提案し、総会にて賛同を得たものです。竹之内裕章会長(当時)が会報第二十四号で提言されているように、経験豊富な先達の知見によって、後学の徒をお導きいただきたいと念願しております。本号二十頁ならびに同封のチラシに必ずお目通しいただきますようお願い申し上げます。

令和五年度(東京)大会を終えて

跡見学園女子大学 横 田 恭 三

暑さが続く九月十七日(日)、本学文京キャンパスにおいて、東京大会が開催されました。昨年度に続く対面開催であり、また東京ということもあって、多数の会員諸氏に参加いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。準備に当たっては、永由理事長をはじめとする常任理事・理事各位のご尽力により、きわめてスムーズに進めることができました。心より感謝申し上げます。

ご承知のように、本学会は研究発表・記念講演会・会員書作展の三本柱を基本に据えている関係で会場設営のほか、書作展の会場確保と展示作業をする必要があります。本学の場合、九月中旬はまだ授業が始まらないため、学生の入校者数は限られており、また女子大学ということもあって外部の方は自由に入校できない規則になっています。したがって書作品を外部の方々に参観してもらうには、学外に展示する必要がありますでしたが、たまたま今年四月からお隣の敷地に開校した中央大学の二階が文京区の地域活動センターとして開設されたため、そのオープンスペースを条件付きながら無償で使用することができました。なお、出品点数は六一点、本学の庶務課課員と学生たちの協力により、搬出までの八日間を大過なく終え、かつ返却できました。

さて、本大会では六件の研究発表があり、その内容はそれぞれ興味深く、質疑応答が活発に行われたことは喜ばしい限りでした。「創立六五周年記念特別講演」では国際交流を意識して、中国人民大学の祁小春先生をお迎えしました。内容は王羲之的研究中に浮上した問題点とその解明についてでした。また大学で同じように書道教育を実施している中国の現状をお聞きしたいと願っていました。講演の後、この方面における意見交換が活発に行われました。これは今後の大学書道教育を考える上で有意義であったといえます。

皆様のご支援ご協力により無事に終えましたこと、厚く御礼申し上げます。

創立六十五周年記念企画「台湾研修旅行」報告

書蹟・拓本に何を見るか

岐阜女子大学 中 根 安 治

国立故宮博物院にて私たち研修団に特別公開された書蹟を閲覧中、同行の初対面の若い団員の方から「先生は何を観点に見てみえますか？」と問われました。予期せぬ質問に少し頭の中を整理して次の三点を答えました。

- ① 点(ドット)の集合体である印刷物には無い「線の切れ味」
 - ② 本物から伝わる「波動(オーラ)」
 - ③ 印刷物では単一の黒の濃淡だけになってしまう「墨色の多様性」
- 以下、今回閲覧した書蹟・拓本を紹介しながら詳しく述べていきたいと思います。

① 線の切れ味

国立中央研究院傅斯年図書館にて欧陽詢の墓誌二点を見ました。これらは日本に将来されていないのか、印刷物さえ見かけたことがあります。「蘇玉華墓誌」は、刻者名に「萬鈞」とあり、「孔子廟堂碑」を彷彿とさせ、欧陽詢の違った一面を見た思いがしました。もう一点「温彦博墓誌」の見事な刻と擦拓による「線の切れ味」に驚きました。「九成宮醴泉銘」に勝るとも劣らない文字群で、臨書したい衝動にかられました。

書蹟では、国立故宮博物院の常設展示で見かけた米芾の書(写真1)が印象的でした。「蜀素帖」とは趣を異にした中央辺りの豪快な線の脈動とその「切れ味」が一瞬で脳裏に焼き付きました。

② 波動(オーラ)

これは主観的で「感じる」ものになりますが、作品制作においても言えると思います。制作に行き詰まった学生に、私が同じ題材を目の前で揮毫する時がある。するとその学生が数枚の内に快作を生み出すことが往々にしてあり

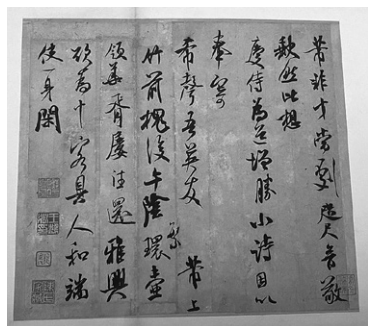


写真1 宋米芾致希声吾友尺牘並七言詩

ます。私の体の動き・筆の動きから「波動」が伝わったものと考えたい。

今研修で一番「波動」を感じたのは、台南大学の拓本収集家である康必寛先生が展示(写真2)してくださった「始建国五年(西暦十三年)」と冒頭にある「新」時代の刻石の拓本です。これまで見たことがなく、ひよっとすると新出土なのかもしれません。「葉子侯刻石」より大きく同じように野線や斜線が施され、また漢以前では珍しい画像も刻されています。書体は古隸よりも篆書系が多いようです。篆書から古隸への過渡期にあたる稀少な古典であろうと思います。凜とした線状で、古代人の意志の強さ・逞しさそしてユーモアが迫ってくるように感じました。

③ 墨色の多様性

京都の藤井有鄰館で黄庭堅書「李太白憶旧遊詩卷」を見た時、一部に松煙系の墨色を見出しました。油煙と松煙が混ざった墨なのかもしれません。宋初の墨の特徴かと思っていました。前出の米芾の書は真つ黒な墨でした。一方同院特別閲覧にあった宋末の張即之の墨色は薄目で爽やかな黒でした。松煙の混入を思わせました。また、同閲覧品中の元の趙孟頫書「急就章」は、真つ黒くたつぷりの墨量で盛り上がっているようにさえ見えました。このように時代と共に変化する「墨色の多様性」を直に観察できることは楽しいことです。

本研修旅行では、特別閲覧をはじめ「本物」をガラス越しではなく、直接この眼で見ることができるところが多く有り難い限りでした。早くから台湾の諸機関と交渉され準備してこられた担当の先生方のご労苦に深く感謝する次第です。

この稿を終えようとして「新しい観点」を思い付きます。それは「紙」です。一見平面ではあるが、ミクロの世界では立体でしょう。筆触によってできる線の有り様を視認すべく次回の研修旅行を鶴首する思いです。



写真2 台南大学での永由理事長あいさつ

全国大学書道学会 令和5(2023)年度 東京大会 次第

開催日 令和5(2023)年9月17日(日)
大会会場 跡見学園女子大学 文京キャンパス
開催大学 跡見学園女子大学

《開会式・総会》

●9:00 受付 (参加費 3,000円 * 準会員(大学院生)は2,000円)
●9:30~10:00 開会式・総会 (会場 M2605教室)

1. 開会のことば		横田 恭三 (跡見学園女子大学)
2. 会長あいさつ		永由 徳夫 (群馬大学)
3. 理事長あいさつ		城間 圭太 (東京学芸大学)
* 議長選出		
4. 議事		
1) 令和4年度事業報告	→ 資料1	杉山 勇人 (鎌倉女子大学)
2) 令和4年度会計報告	→ 資料2	尾川 明穂 (筑波大学)
3) 令和4年度監査報告		山口 恭子 (法政大学)
4) 役員改選について	→ 資料3	永由 徳夫 (群馬大学)
5) 令和5年度事業計画(案)	→ 資料4	杉山 勇人 (鎌倉女子大学)
6) 令和5年度予算(案)	→ 資料5	尾川 明穂 (筑波大学)
7) 長期会員への優遇措置の導入について	→ 資料6	尾川 明穂 (筑波大学)
8) 規約改定について	→ 資料7	永由 徳夫 (群馬大学)
9) その他		
5. その他		
1) 学会誌について		角田 勝久 (新潟大学)
2) 学会創立65周年記念台湾研修旅行について		下田 章平 (相模女子大学)
3) 新入会員紹介		
4) 次年度開催大学あいさつ		和田 圭壮 先生 (福岡教育大学)
5) その他		事務局
6. 閉会のことば		

《研究発表》

- 10:10~11:50 研究発表／午前の部 (会場 M2605教室)
- 10:10~10:40 研究発表① 司会：尾川 明穂(筑波大学)
「漢委奴国王」の解説における通説の「奴」の誤解と真実 元 青山学院高等部 非常勤講師 佐藤 法雄
- 10:45~11:15 研究発表② 司会：下田 章平(相模女子大学)
柳公権「心正則筆正」論の展開 二松学舎大学 専任講師 関 俊史
一術語のもつ意味の変容をめぐる一
- 11:20~11:50 研究発表③ 司会：草津 祐介(東京学芸大学)
工藤文哉による「朝鮮書道史」研究とその意義 国立ハンセン病資料館 主任学芸員 金 貴粉
- 12:50~14:30 研究発表／午後の部 (会場 M2605教室)
- 12:50~13:20 研究発表④ 司会：萱 のり子(奈良教育大学)
筆管の回転を基軸とした書道史記述の可能性について 筑波大学 准教授 尾川 明穂
- 13:25~13:55 研究発表⑤ 司会：小川 博章(淑徳大学)
大西見山の交友関係に関する一考察 相模女子大学 准教授 下田 章平
- 14:00~14:30 研究発表⑥ 司会：角田 勝久(新潟大学)
漢字本来の意味を探る 大阪教育大学 教授 出野 文莉(張莉)
一文字字源を探究するための民俗学的方法一

《大会記念講演》

- 14:40~16:00 学会創立65周年記念特別講演(会場 M2605教室) 司会：萱 のり子(奈良教育大学)
演題：「王羲之的研究中に突き当たった問題とその思考」
講師：祁小春 先生

《会員書作展》

会 期 令和5年9月13日(水)~9月20日(水) 9:00~20:00(土日祝日は9:00~17:00)
(初日は13:00から、最終日は12:00まで)

会 場 文京区立大塚地域活動センター
展示会テーマ 「全国大学書道学会会員による現代書芸術の探求展」(文京区による地域大学との連携企画)

ギャラリートーク 令和5年9月13日(水)19:00~20:00(同会場、横田恭三先生によるギャラリートークを開催)

《理事会》

日 時 9月10日(日) 19:00~20:30 【オンライン開催】

《総会資料》

資料1 令和4（2022）年度事業報告 → 承認

(令和4年)	
5月1日	三学会合同役員会（静岡大会開催方針について）
5月29日	理事会（オンライン）
6月1日	『大学書道研究』第15号、会報（静岡大会1次案内）等、発送
7月5日	全国大学書道学会入会案内送付
7月14日	常任理事会（オンライン）（今年度学会運営について）
7月16日	三学会合同役員会（静岡大会開催方針決定）
8月22日	令和4年度静岡大会開催方針案【最終確定版】公開（大会対面開催）
9月10日	学会誌論文投稿申込締切日
9月11日	理事会（オンライン）
9月16日～18日	書道三学会・静岡大会
9月16日～18日	会員書作展：会期Ⅰ（静岡市民ギャラリー）
10月4日～10月24日	会員書作展：会期Ⅱ（静岡大学図書館ギャラリー）
11月10日	『大学書道研究』投稿論文受付締切日、学会誌投稿論文査読（11月下旬～）
11月26日	特別企画「拓本鑑賞会」（淑徳大学書学文化センター）
12月28日	常任理事会（オンライン）（査読結果確認及び学会誌の発行について）
(令和5年)	
1月～3月	『大学書道研究』編集
3月11日	書に関する講演会（第1弾）講師：横田恭三先生
3月11日	常任理事会
3月21日	三学会合同役員会（本年度学会運営について、令和5年度大会について）

資料2 令和4（2022）年度会計報告（2022.04.01～2023.03.31） → 承認

A：収入の部	
1	2021年度繰越金 7,939,222円
2	2022年度会費（239口） 1,520,000円
3	『書の古典と理論』印税 0円
4	雑収入
	会員書作展協賛費残金 125,843円
	預金利子等 11円
	有高超過 70,624円
合 計 9,655,700円	
B：支出の部	
1	大会運営補助費・謝金 217,365円
2	理事会費（会議費・交通費） 83,570円
3	印刷費（学会誌15号372,900円、会報28号62,929円、会報29号205,834円） 641,663円
4	通信費 83,639円
5	事務費（消耗品費、会費払込手数料36,903円等） 53,442円
6	東洋学・アジア研究連絡協議会費 2,000円
7	ホームページ保守・更新費 73,480円
8	諸行事の開催・準備費等 117,495円
9	雑費（慶弔費） 16,500円
合 計 1,289,154円	
● A－B（9,655,700円－1,289,154円）＝ 8,366,546円（前年度比＋427,324円）	
上記の通り報告いたします。	
以上相違ありません。	
令和5年7月13日	会計局 尾川 明穂 ㊞
令和5年7月13日	監 査 中村 史朗 ㊞
	同 山口 恭子 ㊞

資料3 令和6（2024）年度～7（2025）年度 役員一覧 → 承認

*任期	令和6年（2024）4月～令和8年（2026）3月
*敬称略	下線は新任 ○は局長
参 与	野中 浩俊 竹之内裕章
会 長	横田 恭三（跡見学園女子大学）
副会長	柿木原くみ（相模女子大学名誉教授） 神野 雄二（熊本大学名誉教授）

理事長	永由 徳夫 (群馬大学)
副理事長	小川 博章 (淑徳大学)
常任理事	※【企画局】を新設
	【事務局】 ○杉山 勇人 (鎌倉女子大学)
	【学術局】 ○下田 章平 (相模女子大学)
	佐々木佑記 (五島美術館)
	【編集局】 ○草津 祐介 (東京学芸大学)
	【企画局】 ○小川 博章 (淑徳大学) ※兼任
	角田 勝久 (新潟大学)
	【会計局】 ○尾川 明穂 (筑波大学)
	柳田さやか (東京藝術大学)
理事 (各局担当)	
	【事務局】 城間 圭太 (東京学芸大学)
	藤森 大雅 (大東文化大学書道研究所)
	【学術局】 井田 明宏 (安田女子大学)
	早川 桂央 (相模女子大学)
	【編集局】 見城 正訓 (静岡大学)
	出野 文莉 (大阪教育大学)
	【企画局】 関 俊史 (二松学舎大学)
	松尾 治 (専修大学)
	【会計局】 金 貴粉 (国立ハンセン病資料館)
	権田 瞬一 (大東文化大学書道研究所)
理事 (地区担当)	※ [北陸] と [東海] は、合わせて「中部」に変更。
	[北海道] 西川 竜矢 (北海道教育大学旭川校)
	[北海道] 土井 伸也 (北海道教育大学岩見沢校)
	[東北] 久保田陽子 (岩手大学)
	[関東] 城間 圭太 (東京学芸大学) ※兼任
	[関東] 徳泉 さち (日本大学)
	※ [中部] 小林比出代 (信州大学)
	※ [中部] 中根 安治 (岐阜女子大学)
	[近畿] 丸山 果織 (神戸松蔭女子大学)
	[近畿] 萱 のり子 (奈良教育大学)
	[中国] 井田 明宏 (安田女子大学) ※兼任
	[中国] 谷口 邦彦 (安田女子大学)
	[四国] 森上 洋光 (四国大学)
	[四国] 東 賢司 (愛媛大学)
	[九州] 山元 宣宏 (宮崎大学)
	[九州] 瀬筒 寛之 (鹿児島大学)
監事	中村 史朗 (滋賀大学)
	山口 恭子 (法政大学)

資料4 令和5 (2023) 年度事業計画 (案) → 承認

(令和5年)

- 4月1日 ……書道三学会令和5年度東京大会開催方針
- 5月20日 ……常任理事会 (東京大会について)
- 5月28日 ……理事会 (オンライン)
- 6月1日 ……『大学書道研究』第16号、会報 (東京大会1次案内) 等、発送
- 7月16日 ……三学会合同役員会 (東京大会)
- 8月23日 ……令和5年度東京大会第2次案内送付
- 8月31日 ……学会誌論文投稿申込締切日
- 9月10日 ……理事会 (オンライン)
- 9月15日～17日 ……書道三学会・東京大会
- 9月13日～20日 ……会員書作展 (文京区立大塚地域活動センター)
- 11月10日 ……『大学書道研究』投稿論文受付締切日、学会誌投稿論文査読 (11月下旬～)
- 12月27日～30日 ……全国大学書道学会創立65周年記念企画 台湾研修旅行
- 12月下旬 ……常任理事会 (査読結果確認及び学会誌の発行について)

(令和6年)

- 1月～3月 ……『大学書道研究』編集
- 3月中旬 ……常任理事会／三学会合同役員会 (本年度学会運営について、令和6年度大会について)

資料5 令和5（2023）年度予算（案）（2023.04.01～2024.03.31） → 承認

A： 収入の部	
1 2022年度繰越金	8,366,546円
2 2023年度会費（一般210口、学生10口、計220口）	1,310,000円
3 『書の古典と理論』印税	250,000円
4 雑収入（預金利息等）	5円
合 計	9,926,551円
B： 支出の部	
1 東京大会運営補助費・謝金	320,000円
2 理事会費（会議費・交通費）	800,000円
3 印刷費（学会誌16号、会報30・31号）	600,000円
4 通信費	100,000円
5 事務費（消耗品費・振替手数料）	150,000円
6 東洋学・アジア研究連絡協議会費	2,000円
7 ホームページ更新費	73,480円
8 諸行事の開催・準備費等	300,000円
9 予備費	7,581,071円
合 計	9,926,551円

資料6 長期会員への優遇措置の導入について → 承認**1. 経緯**

- ・2022.05.29 永由理事長より、満70歳（満65歳）以上の会員への優遇措置を検討するよう提案あり。
- ・2023.03.11 常任理事会において優遇措置の詳細について提案。
- ・2023.05.28 理事会にて検討中の旨を報告。
- ・2023.09.10 常任理事会・理事会にて当該措置年齢設定について審議。
- ・2023.09.17 総会審議（本日）

2. 会計局からの提案

- ・前年度までに満64歳に達した会員のうち、前年度までに発生した会費（10年分以上）を完納した者は、30,000万円を一括納入した場合、以降の会費納入は免除することとしたい。
- ・令和6年（2024）4月1日に、規約第9条を下記のように改定する。

【現 行】

会員の会費は、年額6,000円、準会員の会費は、年額5,000円とする。
ただし、会費未納の場合は、除名することがある。

【改定案】

会員の会費は、年額6,000円、準会員の会費は、年額5,000円とする。ただし、会費未納の場合は、除名することがある。

前年度までに満六十四歳に達した会員のうち、前年度までに発生した会費（十年分以上）を完納した者は、30,000円を一括納入した場合、以降の会費納入を免除する。

・実際の運用では、

- ①移行措置として、令和6（2024）年度に限り、下記金額を一括納入することにより令和7年度以降の会費納入を免除することとする。

令和5年度中に満65歳を迎えた会員	24,000円
令和5年度中に満66歳を迎えた会員	18,000円
令和5年度中に満67歳を迎えた会員	12,000円
令和5年度中に満68歳を迎えた会員	6,000円

令和5年度までに満69歳以上に達した会員は、会計局長への連絡（様式・方法任意）により申告すること
で、令和6年度以降の納入は免除する。

- ②前年度までに満70歳以上に達した会員に対して、既納入分の返金はないことを告知する。

- ・当該措置適用会員の退会処理に関して、会計局において以下の業務を行う。
- ・通常6月に、会費既納者宛てに納入不要の旨のハガキを送付するが、これと同時に当該措置適用会員宛に会員継続の意思を確認する往復ハガキを送付する。
- ・継続・非継続の意思が確認できたものについては、そのように対応する。
- ・2年にわたり返信が確認できなかった場合は、退会したものと見なす。

3. 今後のスケジュール

- ・2024.02.01 会報31号にて告知（上記②の確認が主）。
- ・2024.04.01 HPの規約修正。
- ・2024.06.01 会報32号にて告知（具体的な方法を記載）。

資料7 規約改定について → 承認

全国大学書道学会規約

(下線部は変更箇所)

- 第一条 本会は、全国大学書道学会と称し、事務局を常任理事の勤務校内におく。
- 第二条 本会は、会員と準会員によって構成する。
会員は、国公私立大学の書道を専門とする教員、及び本会の目的に賛同する者とする。
 大学院生は、準会員とする。
 なお、大学院在籍者、及び本会の目的に賛同して入会を希望する者は、会員の推薦を受け、常任理事会の承認を経なければならない。
- 第三条 本会は、書道に関する研究の充実と発展につとめ、会員相互の親睦をはかることを目的とする。
- 第四条 本会は、前条の目的を達成するために、次のことを行う。
書道に関する研究発表及び学会誌の発行
書道に関する諸問題の協議
講演会及び展覧会
関連する諸機構との連絡及び協力
その他必要と認められたもの
- 第五条 本会は、毎年一回総会を開く。
- 第六条 本会には、参与若干名を置くことができる。参与は、理事会において推薦する。
- 第七条 本会には、会長一名・副会長若干名を置くことができる。会長・副会長は、理事会の推薦により選任され、理事長の諮問に応ずる。
- 第八条 本会に左の役員ならびに各局を置き、会の運営をはかる。
 1 理事長 一名
 2 副理事長 若干名
 3 常任理事 若干名
 4 理事(各局担当) 若干名
 5 理事(地区担当) 各地区若干名
 6 監事 二名
理事長・副理事長・常任理事及び監事は、総会によって選出する。
理事(各局担当)は、理事長が若干名を指名する。
理事(地区担当)は、各地区から理事長が若干名を指名する。
役員の任期は二年とする。なお、再任は妨げない。
 1 事務局：学会の事務一般に関する業務
 2 学術局：投稿論文の査読・校正に関する業務
 3 編集局：会報・学会誌等の編集に関する業務
 4 企画局：研修を趣旨とする企画に関する業務
 5 会計局：学会の財務一般に関する業務
 6 監事：学会の財務状況に対する監査
各局に常任理事及び理事を若干名配置する。常任理事一名を局長とし、局員は局長の業務を補佐する。なお、各局担当理事については、地区担当理事との兼務も可能とする。
- 第九条 本会の経費は、会費、寄付金その他をもってあてる。
- 第十条 会員の会費は、年額六〇〇〇円、準会員の会費は、年額五〇〇〇円とする。ただし、会費未納の場合は、除名することがある。
前年度までに満六十四歳に達した会員のうち、前年度までに発生した会費を完納した者は、三万円を一括納入した場合、以降の会費納入を免除する。
- 第十一条 本会の会計年度は、四月一日から翌年三月三十一日までとする。
- 附則 本規約は昭和三十四年六月十二日から施行する。
 平成三年十一月 一部改正
 平成十三年十一月 一部改正
 平成二十年九月 一部改正
 平成二十二年十月 一部改正
 平成二十七年九月 一部改正
 令和元年九月 一部改正
 令和六年四月 一部改正

会員の異動(新入会員・準会員/退会・退会申出者)

※ 2023.01 ~ 2023.12の会員の異動

《会 員》

西村 大輔(奈良教育大学)
 根本 伸也(大東文化大学)
 吉田 卓(札幌静修高等学校)／推薦者：下田 章平
 長瀬 拓磨(株式会社天来書院)／推薦者：横田 恭三
 佐藤 法雄(元青山学院高等部)／推薦者：横田 恭三

穂苅 真里子(十文字学園女子大学)
 志民 和儀(大東文化大学書道研究所)
 蒲池 真純(NHK学園高等学校)／推薦者：永由 徳夫
 沈 伯陽(東京中央オークション)／推薦者：下田 章平

《準会員》

寺松 錦(東京学芸大学教職大学院)／推薦者：加藤 泰弘
 河合 信代(武蔵野大学大学院)／推薦者：廣瀬 裕之

阿部 ゆう(東京学芸大学教職大学院)／推薦者：草津 祐介
 李 瀟(兵庫教育大学連合大学院)／推薦者：中村 史朗

《退会・退会申出者》

森山 秀吉 高柳 幸雄

学会創立六十五周年記念特別講演

祁小春「王羲之研究中に突き当たった問題とその思考」のご報告

東京学芸大学 草津 祐介

学会創立六十五周年記念特別講演として、中国人民大学芸術学院の祁小春教授を招聘し、「王羲之研究中に突き当たった問題とその思考」というタイトルでご講演いただきました。

祁小春教授は、長く日本にて学ばれ、立命館大学にて博士の学位を得、佛教学大学にて勤務された後、広州美術学院中国画学院教授として帰国されました。現在は、中国人民大学芸術学院に勤務されています。日本語の著書には『王羲之論考』や『中国古籍の板刻書法』（共に東方出版）があります。

今回の講演は、これまでの王羲之研究について、ケーススタディ1…尺牘法帖における「複書」、ケーススタディ2…『蘭亭序』における避諱字、およびその三種の内容に分けて講演いただきました。さらには、中国の書法教育についても質問に答えるかたちでご説明いただきました。

ケーススタディ1では、およそ次のことをお話しいただきました。中国の古代、主に魏晋南北朝時代には「単書」「複書」という手紙の形式があり、その名の通り「単書」は一枚の紙に書いた手紙で、急ぎの場合に使われることが多い。「複書」は複数枚の手紙のことで、一枚目に挨拶やお礼を書き、二枚目に本題を書くという習慣があったということです。このことは敦煌から発見された「書儀」からわかるようですが、魏晋南北朝時代は「複書」が多く使用されていたようです。この点から王羲之の尺牘法帖を見ると、本来は一つの手紙（尺牘）であるべきものが、別に掲載されているものが多かったということです。具体的には、『右軍書記』の一七七帖と七八帖（数字は中田勇次郎氏によるもの）、「淳化閣帖」巻二の王洽の「不孝帖」と「兄子帖」等が本来は「複書」だったのではないかと、ということでした。さらに、「十七帖」は最初

から用件が書かれてあり、下紙を集めたものと言えるのではないかと、いう考えに至る経緯を論理的に説明いただきました。

ケーススタディ2でお話いただいたのは、およそ次の通りです。蘭亭序にある二文字の「覧」字は、手偏をつけて「攬」と書かれています。従来の説では、曾祖父の王覽の避諱であるといわれていました。しかし、祁小春教授は従来の説について、以下の五点の疑問を提示していました。①「覧」にわざわざ手偏を付ける明確な理由がないこと。②王羲之は他の尺牘で「攬」字を使っていないこと。③「攬」では意味がうまく通じないこと。④「覧」も「攬」も発音が一緒であり避諱としては不十分であること。⑤王羲之という私人が手偏を付け避諱することと、国が「會」におおごとをつけて「鄒」とするのとは違うこと。この点についての反論および反論に対する祁小春教授の見解についてもさらに詳細に説明いただきました。

今回の講演を通し、祁小春教授の研究が非常に考証的な細やかさと学際的な広さをもったものであることを深く感じました。

最後に、高等教育に関わってきた祁小春教授より、大学における書法教育の実際、カリキュラム等について、広州美術学院を例にご説明いただきました。また、王羲之の中国の書教育での取り扱われ方についても言及されるとともに、初等中等教育における書法教育の現状について、蘇州の友人の例をもとに説明をいただき、充実した楽しい時間を過ごすことができました。

改めて、ご講演いただいた祁小春教授に御礼申し上げます。



全国大学書道学会会員書作展の ギャラリートーク参加報告

東京藝術大学 柳田 さやか

本年度の全国大学書道学会会員書作展の開催に際して、本学会会長の横田恭三先生によるギャラリートークが令和五年九月十三日(水)の午後七時から一時間、会場の文京区立大塚地域活動センターにて開催されました。どなたでも参加可能な催しとして、文京区民の方々を中心に、跡見学園女子大学で書を学ぶ学生の皆様、大塚地域活動センターの方々、本学会会員など多くの参加者で会場は活況を呈していました。

ギャラリートークでは会場の作品を鑑賞しながら、篆書・隸書・草書・行書・楷書のそれぞれの歴史や、漢字・仮名・漢字仮名交じりの書・篆刻の魅力と各作品の見どころを紹介されました。横田先生のお話や穏やかな話し方に引き込まれ、会場には終始笑顔があふれていました。ギャラリートークが終了してもなお文京区民の方々の熱はおさまらず、横田先生に積極的なご質問をなさっていました。大塚地域活動センターの方によりますと、文京区民の方々は文京区のことを「文の京」と称すとのこと、文化や学問への関心の深さに脱帽いたしました。

改めまして、会員書作展の諸準備・搬入出をご多忙の折に担ってくださいました横田先生および跡見学園女子大学の学生の皆様に、こころより御礼申し上げます。



書道芸術の継承の可能性 ～教養教育科目を担当して～

岩手大学 久保田 陽子

人文社会科学部の専門教育科目の他に、全学の教養教育科目を担当しています。テーマは「書道芸術の世界」です。現在は、毎年後期に一科目開講、主な履修者は農学部的一年生です。シラバスの記載を遵守しながら授業を実施していますが、個人的には鑑賞者の開拓も念頭に置いています。書美や書道文化は、鑑賞者によって磨かれ受け継がれる側面があります。この授業を履修してくれている学生達が、いずれ書道史を後世につなぐ仲間に加わってくれたら心強く思います。

初回の授業で書道観を問うと、「つまらない」「不得手なので嫌い」「辛い思い出しかない」「ICT時代に学ぶ意味は？」等の否定的な声が返ってきます。しかし、「岩手芸術祭」と「岩手県高等学校教員書道展」に足を運ばせると反応は一変します。両展ともに作品の練度が高く意欲作が多いため、鑑賞レポートに好意的な感想が並ぶのは当然ですが、前者は迫力や構成、後者は作品形態や制作意図に驚き魅了されたという意見が目立ちます。本物の書道芸術と出会い、先入観を打ち砕かれ作品に圧倒され目を開かれた学生達は、それぞれ興味や疑問を携え大学に戻ってきます。

学内の授業では、座学以外に対話型鑑賞を取り入れた鑑賞会や制作者の心理を知るための簡単な作品制作と合評会を行っています。YouTube動画で仮名書家の運筆を観察させ感想を共有することもあります。学生達は戸惑いながらも次第に楽しさを見出し、瑞々しい言葉で語り始めます。その様子に、書道芸術の継承の可能性はまだまだ残されていると思わずにいられません。まずは知ってもらうことから始めたいと思います。



過去の学生の成果物

書道の理解を深めるための大学生による 高校生への書道実技講座

北海道教育大学旭川校 西川 竜矢

北海道教育大学は、大学の使命である「教育」「研究」「社会貢献」に関する目標を定めており、社会貢献に関する目標の一つとして「北海道における学術・文化・教育の創造を推進する拠点として、地域社会に有益な情報を発信し、広く学びの場を提供する。」と宣言し、国民、特に地域社会に対して教育と研究の両面から貢献することを目指しています。

本学（旭川校）では、書道の理解を深めるための大学生による高校生への書道実技講座を行いました。この活動を基礎にして本学の教育的資源と研究成果の地域還元と地域教育における連携・貢献を更に推進することが目的です。

高等学校においては、書道の専門教員がいない場合もあり、生徒にとって書道に対する理解はもとより、書に対する興味関心を深める機会は高校によっても差があります。この事業を通して書に関する多様な価値観（見方・考え方）に触れることにより、生徒がひいては、地域の文化を発展させ、継続させる担い手になることにもつながることを期待し、企画しました。

また、この企画は、大学生が他者を指導するという経験を通して、指導者意識の醸成にもつながりました。書を指導するというのは、ただテクニクや知識を伝えればいいというわけではなく、時には生徒の立場に寄り添いながら、ともに自身も変容する必要があるという気づきを生みました。この経験を通して、学生の内的な変容を促すことで教職への意欲向上などが期待でき、これまでの学生の学び（ゼミナールでの研究発表成果）を実践の場で直接生かす貴重な機会になりました。

高校生の感想としては、「大学生が研究している内容を通じて、高校では学ぶことのできない書道の奥深さや歴史的な書（古典）の理解がより深まった」との声がありました。また、外から観察していた高校教員から、「生徒たちが新鮮な気持ちで取り組み、アドバイスを受けながらどんどん変容していく姿を見ることができました」との感想が寄せられました。

大東文化大学の書道と デジタル・アーカイブスの取り組み

大東文化大学書道研究所 藤森 大雅

大東文化大学では、建学以来培ってきた漢学と書道に係る研究が行われてきました。その取り組みを「漢学・書道の学際的研究拠点の形成による『東洋人の『道』研究教育の推進』と題し、文部科学省の平成三十年度私立大学ブランディング事業に採択されました。大学が所有する東洋の知的財産資源である拓本コレクションを精査し、デジタル・アーカイブスとして公開することを目的とした調査を開始しました。私が所属する書道研究所では中国の西周（清末を中心とした「字野雪村文庫」（一四三四種）と、中国の新出土を中心とした「西林昭一文庫」（一三一種）の「拓本アーカイブス」を担当し、当該資料の時代考証を中心とした精査と撮影を行いました。その成果は「大東文化大学デジタル・アーカイブスサイト」(<https://www.i-repository.net/ii/meta/pub/G000721daio>)として令和三年に一般公開されました。「拓本アーカイブス」は冊子本を中心に九五〇件が公開されていますが、残る六〇〇件余りは準備が整い次第公開する予定です。この他、「漢籍アーカイブス」（二五件）、「書跡アーカイブス」（二五四件）、「自校史アーカイブス」（八一件）、「道アーカイブス」（一九八件）があります。名称による検索の他、キーワード検索にも対応し、画像は保存、印刷が可能です。是非ご利用ください。

書跡のデジタル・アーカイブス化により、本学が所有する知的資源が国内外の研究者や学生に広く活用されることを願うとともに、貴重な資料を保存し、後世に伝えていくことは勿論のこと、さらなるコンテンツの拡充のため、引き続き調査研究を継続していくことが我々の使命だと思っています。



大東文化大学
デジタル・アーカイブス
サイト接続用QRコード

二〇二三年度全国大学書道学会 会員・準会員一覽

相川 匡也	栃木県	栃木県	大島 史子	群馬県	県立太田フレックス高等学校	神戸 雅史	東京都	千葉日本大学第一・高等学校	沈 伯陽	東京都	東京中央オークション
青木 馨子	東京都	元武蔵野大学	太田 剛	徳島県	四国大学	岸野 大	広島県	県立広島高等学校	神野 雄二	東京都	熊本大学名誉教授
青木 辰樹	埼玉県	県立羽生高等学校	太田 知美	北海道	北海道札幌学院高等学校	北畠 康成	大阪府	精華高等学校	水田 至摩子	埼玉県	畠山記念館
青戸 貴子	鳥取県	米子市美術館	大野 幸子	埼玉県	桜蔭中学高等学校	衣川 彰人	愛知県	愛知教育大学	杉浦 妙子	東京都	二松学舎大学
青山 浩之	神奈川県	横浜国立大学	大橋 修一	埼玉県	川口短期大学	清兼 孝生	北海道	前橋市立柏田中学校	杉崎 哲子	静岡県	静岡大学
秋山 恵子	長野県		大森 アユミ	福岡県	長崎大学	金 貴粉	東京都	国立ハンセン病資料館	杉山 勇人	神奈川県	鎌倉女子大学
浅井 陽子	埼玉県	星野学園小学校	岡崎 忍	神奈川県	相模女子大学高等部	草津 祐介	東京都	東京学芸大学	鈴木 清	香川県	長崎大学
浅野 多鶴	岐阜県	愛知学院大学	岡島 正秀	神奈川県	岐阜女子大学	久保田 陽子	岩手県	岩手大学	鈴木 慶子	福岡県	鳥取大学
網代 菜摘	神奈川県	昭和女子大学附属昭和高等学校	岡田 直樹	大阪府	京都教育大学	熊坂 尚史	東京都	巣鴨中・高等学校	関 俊史	東京都	二松学舎大学
足立 敦子	茨城県	相模女子大学	岡野屋宏一	東京都	東京外国語大学	黒田 悟史	埼玉県		瀬筒 寛之	鹿児島県	鹿児島大学
阿部 ゆう	東京都	東京学芸大学教職大学院	岡村 浩	新潟県	新潟大学	見城 正訓	静岡県	静岡大学	芹澤 麻美子	埼玉県	千葉大学教育学部附属小学校
雨宮 千春	東京都	芸術新聞社	尾川 明穂	茨城県	筑波大学	古木 誠彦	福岡県	九州女子大学	染谷 慶子	埼玉県	書文化研究会
荒井 一浩	東京都	東京学芸大学附属高等学校	小川 崇	埼玉県	県立坂戸西高等学校	小坂 克子	愛知県	愛知淑徳大学	染谷 洪太	千葉県	船橋市東図書館
荒金 治	大分県	別府大学名誉教授	小川 貴史	新潟県	県立新潟東高等学校	小竹 正高	岡山県	岡山明誠学院高等学校	高木 厚人	千葉県	大東文化大学
荒金 信治	大分県	別府大学名誉教授	小川 博章	東京都	淑徳大学	小西 憲一	香川県	香川大学	高嶋 良子	香川県	四国大学大学院
安生 成美	茨城県	県立八千代高等学校	押木 秀樹	新潟県	上越教育大学	小林 比出代	長野県	信州大学	高橋 克匡	岩手県	県立深谷第一高等学校
五十嵐 もこ	神奈川県	都立世田谷総合高等学校	押野 加奈	東京都	東京学芸大学附属国際中等養学校	小林 恵	神奈川県	青島社	鷹啄 知美	埼玉県	
五十嵐 康子	神奈川県	麻布学園	落石 園美	東京都		小林 祐太	群馬県	県立前橋商業高等学校	高橋 美穂子	神奈川県	
池田 孝一	千葉県	志学館高等部	小野寺 東史	宮城県	相模女子大学名誉教授	駒瀬 公哉	岐阜県	県立岐阜城北高等学校	滝口 雅弘	京都府	
池田 利廣	奈良県	大阪教育大学	柿木原くみ	東京都	出光美術館	権田 瞬一	埼玉県	大東文化大学書道研究所	武井 彩香	群馬県	上武大学
井澤 秀彦	東京都	法政大学	笠嶋 忠幸	東京都	東京学芸大学	齋木 久美	千葉県	茨城大学	竹嶋 秀聡	三重県	県立亀山高等学校
石井 健	埼玉県	東京学芸大学	加藤 泰弘	東京都	東京学芸大学	齋藤 颯	群馬県	前橋市教育委員会	竹之内 裕章	佐賀県	佐賀大学名誉教授
石橋 隆文	東京都	東京地方検察庁	加藤 祐司	埼玉県	東京学芸大学	齋藤 英男	埼玉県	武蔵野学院大学	立石 充	徳島県	徳島県立文学書道館
伊豆名皓美	新潟県	新潟大学大学院	香取 潤哉	千葉県	茨城県立那珂湊高等学校	坂井 昭彦	新潟県	新潟市教育委員会	田中 有紗	東京都	東京学芸大学大学院
井田 明宏	広島県	安田女子大学	金子 章乃	東京都	出光美術館	佐々木 佑記	東京都	五島美術館	田中 春菜	埼玉県	大東文化大学大学院博士課程
板橋 聡美	東京都	昭和女子大学	金子 馨	神奈川県	佛教大学	佐藤 有紗	千葉県	県立京葉高等学校	田中 秀征	徳島県	県立小松島高等学校
伊藤 亜美	埼玉県	跡見学園女子大学	金田 充康	滋賀県	NHK学園高等学校	佐藤 英樹	東京都	早稲田大学高等学院	谷口 邦彦	北海道	安田女子大学
伊藤 彩里沙	群馬県	富岡市立北中学校	蒲池 真純	埼玉県	日本大学	塩田 智代美	広島県	書宗院	谷橋 由花	北海道	
井上 悠	埼玉県	武蔵野大学大学院	亀田 絵里香	埼玉県	奈良国立文学機構奈良教育大学	塩田 智代美	広島県	大東文化大学書道研究所	田ノ岡 大雄	四国大学	
今井 京子	群馬県	前橋市立桃井小学校	萱原 晋	東京都	武蔵野大学大学院	志民 和儀	京都府	静岡大学	田畑 理恵	東京都	都留文科大学
今井 裕登	群馬県	前橋市立柏川小学校	萱原 晋	東京都	NHK学園高等学校	渋谷 美登里	静岡県	静岡大学	田村 南海子	埼玉県	文部科学省
岩原 優花	群馬県	県立前橋高等特別支援学校	河合 信代	東京都	武蔵野大学大学院	清水 文博	山梨県	相模女子大学	淡海書道文化専門学校	滋賀県	
内門 亮子	東京都	専修大学	河合 信代	東京都	NHK学園高等学校	下田 章平	神奈川県	宮城教育大学	丁 磊	京都府	佛教大学大学院
内山 裕美	東京都	早稲田大学	川内 広太郎	埼玉県	東京学芸大学	下田 真奈美	宮城県	大泉町立南小学校	出野 文莉	奈良県	大阪教育大学
浦 有希	東京都	東京学芸大学大学院	河内 佑毅	東京都	東洋大学	霜触 智会	群馬県	県立致遠館中学校	塚本 宏	東京都	和洋女子大学名誉教授
浦野 俊則	埼玉県	千葉大学・植草学園大学名誉教授	河内 利治	東京都	大東文化大学	正實 直美	佐賀県	県立致遠館中学校	辻 尚子	徳島県	四国大学
王 国強	栃木県	宇都宮大学大学院博士課程	川原 淳	東京都		白鳥 ゆう子	神奈川県	立正大学	津田 好一	埼玉県	二松学舎大学
						城間 圭太	東京都	東京学芸大学	角田 勝久	新潟県	新潟大学

津村 幸恵	千葉県 都留文科大学	樋口 咲子	群馬県 千葉大学	山下 由季	東京都 日本大学
寺松 錦	東京都 東京学芸大学教職大学院	備前 徹	東京都 専修大学	山田 典生	福井県 福井大学
土井 伸也	北海道 北海道教育大学岩見沢校	平田 光彦	京都府 武庫川女子大学	山中 草叶	北海道 札幌国際大学
徳泉 さち	東京都 日本大学	廣瀬 裕之	東京都 武蔵野大学	山本 彩	広島県 筆の里工房
利光 亜希子	福岡県 県立太田第一高等学校	福井 淳哉	東京都 帝京大学	山本 興	県立松江農林高等学校
飛田 博昭	茨城県 県立太田第一高等学校	福島 一浩	東京都 二松学舎大学	山元 宣宏	宮崎県 宮崎大学
登丸 昌子	神奈川県 横浜国立大学附属横浜小学校	藤原 真子	東京都 総務省大学院大学博士後期課程	山本 まり子	神奈川県 鶴見大学
豊口 和士	神奈川県 文教大学	藤井 俊太郎	群馬県 共愛学園高等学校	山本 祐司	愛知県 中部大学
鳥本 純平	京都府 府立東宇治高等学校	藤森 大雅	埼玉県 大東文化大学書道研究所	湯川 恵子	千葉県 日本放送協会学園
仲川 恭司	埼玉県 専修大学名誉教授	穂村 里子	東京都 十文字学園女子大学	横倉 佳男	神奈川県 国学院大学
中嶋 久美	青森県 弘前大学	本多 和宏	千葉県 県立柏井高等学校	横田 恭三	埼玉県 跡見学園女子大学
中島 恵美子	茨城県 専修大学	本田 容子	神奈川県 鎌倉女子大学	横山 佳通	名古屋芸術大学
中根 安治	愛知県 岐阜女子大学	前川 知里	長野県 鎌倉女子大学	吉澤 義和	静岡県 元文教大学
中村 薫	東京都 大東文化大学人文学研究所	牧野 浩二	大阪府 佐久市立近代美術館	吉田 卓	北海道 札幌静修高等学校
中村 史朗	京都府 滋賀大学	増田 尚子	千葉県 四天王寺大学	吉田 真	日本パソナ能力検定委員会
長瀬 拓磨	東京都 天来書院	松浦 貢	埼玉県 県立大学	李 瀟	滋賀県 滋賀県立大学
長野 秀章	東京都 東京学芸大学名誉教授	松尾 治	埼玉県 専修大学	劉 作勝	愛知県 愛知学院大学
永由 徳夫	東京都 群馬大学	松原 直也	岐阜県 県立岐阜農林高等学校	和田 圭壮	福岡県 福岡教育大学
名部 勝美	滋賀県 淡海書道文化専門学校	松本 貴子	千葉県 大東文化大学	渡邊 仁	静岡県 静岡大学
浪江 加奈子	岐阜県 岐阜女子大学	松本 仁志	広島県 広島大学	渡邊 周一	四国大学
浪田 美智枝	北海道 都立竹早高等学校	松本 美恵	兵庫県 香蘭女学校		
成瀬 靖子	東京都 都立竹早高等学校	真弓 幹子	東京都 神戸松蔭女子学院大学		
西川 竜矢	北海道 北海道教育大学旭川校	丸山 果織	兵庫県 香蘭女学校		
西田 健	東京都 攻玉社中・高等学校	三浦 拓真	愛知県 県立とらぎ野高等学校		
西村 大輔	京都府 奈良教育大学	水木 亮子	富山県 武蔵野大学		
仁田 幸一郎	東京都 大東文化大学	三田 広美	東京都 陽山美術館		
根本 伸也	埼玉県 高野山大学	三井 忠大	東京都 山梨大学名誉教授		
野田 悟	大阪府 岐阜女子大学	宮澤 正明	広島県 筑波大学名誉教授		
野中 浩俊	新潟県 安田女子大学	森 哲之	茨城県 四国大学		
信廣 友江	広島県 安田女子大学	森岡 隆	徳島県 四国大学		
橋本 栄一	埼玉県 安田女子大学	森下 洋光	徳島県 四国大学		
橋本 麻希	神奈川県 東京都立大学	森下 弘	広島県 四国大学		
蓮見 行廣	東京都 東京学芸大学名誉教授	安 裕明	茨城県 茨城大学		
長谷川 千栄子	神奈川県 県立横浜桜陽高等学校	安原 亜悠	岡山県 県立玉島高等学校		
服部 一啓	福岡県 福岡教育大学	柳田 さやか	神奈川県 東京芸術大学		
濱田 瑞美	神奈川県 横浜美術大学	矢原 徳子	広島県 静岡大学		
濱田 尚文	千葉県 県立市原高等学校	山内 常正	静岡県 静岡大学		
早川 桂央	神奈川県 相模女子大学	八巻 敏幸	奈良県 奈良県立大学		
東 賢司	愛媛県 愛媛大学	山口 恭子	東京都 法政大学		
東野 敏夫	大阪府 大阪樟蔭女子大学	山崎 真由美	東京都 都立新宿高等学校		

総会員数 一五五名

(二〇二三年十二月末日現在)

※ 氏名を五十音順に配列し、居住地の都道府県名、所属を記しました。所属について、変更の申し出がないものについては昨年度の一覧に掲載したものをそのまま掲載しています。

※ 氏名・都道府県・所属に変更あるいは誤りがある場合、記載漏れがある場合は、事務局まで文書・メールにてお知らせください。

※ 現在、大会案内・学会誌・会報等はメール便で送付しています。住所変更・転居の場合は新住所・転居先を速やかに事務局宛に文書でお知らせください。正確・迅速な発送を期すために皆様のご協力をお願いいたします。

年会費納入のお願い

本年度年会費が未納の方は、2月末日までに納入くださるよう、お願いいたします。

〈昨年度まで完納されている会員〉

*年会費は、会員6,000円、準会員(大学院生)5,000円です。準会員は、大学院修了後、会員資格として取り扱います。

〈昨年度までに未納分がある会員〉

*未納分のある場合は、その旨を「払込取扱票」に記載しておりますので、本年度分と併せて納入ください。

■口座番号 00110-9-613810

■加入者名 全国大学書道学会

〈全国大学書道学会 会計局〉 〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学芸術系 尾川研究室内

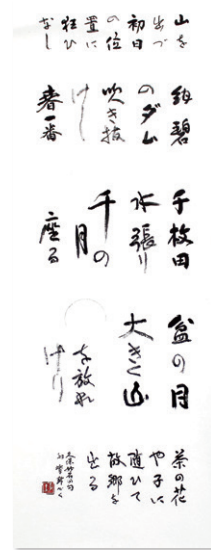
TEL/FAX 029-853-2717

E-mail ogawa@geijutsu.tsukuba.ac.jp

令和五年度 全国大学書道学会会員書作展

— 全国大学書道学会会員による書芸術の探求展 —

1 妙石五句 柿木原くみ（相模女子大学名誉教授）



2 一望無垠 加藤泰弘（東京学芸大学）



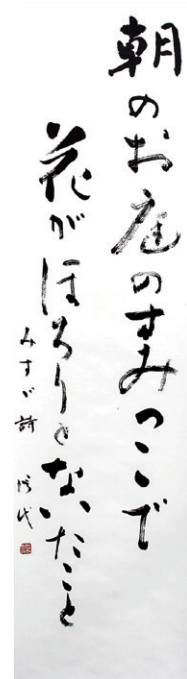
3 亀田鵬齋詩一節 亀田絵里香（日本大学）



4 加賀千代女の句 萱のり子（奈良教育大学）



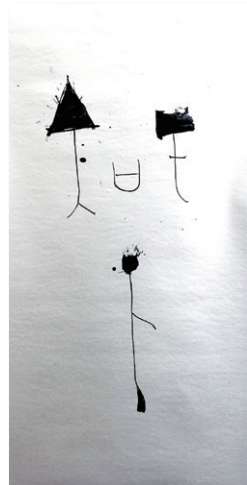
5 金子みすゞの詩 河合信代（武蔵野大学大学院）



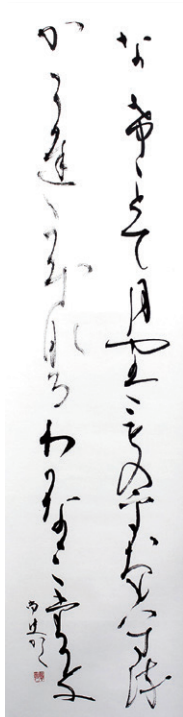
6 駆群羊攻猛虎 川内佑毅（東洋大学）



7 知人 草津祐介（東京学芸大学）

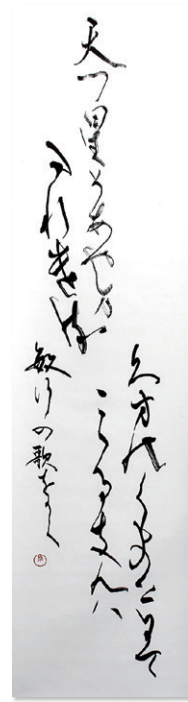


8 西行の歌 熊坂尚史（巣鴨中等高等学校）



令和五（二〇二三）年九月十三日（水）～二十日（水）
文京区立大塚地域活動センター
ギャラリートーク 九月十三日（水） 十九時～二十時 横田恭三先生

9 久方の雲の上にて… 神戸雅史（千葉日本大学第一中学高等学校）



13 吞舟之魚不游枝流 城間圭太（東京学芸大学）



16 無謬 杉山勇人（鎌倉女子大学短期大学部）



10 東坡詩句 小西憲一（香川大学）



14 神線作品二〇二三 神野雄二（熊本大学名誉教授）



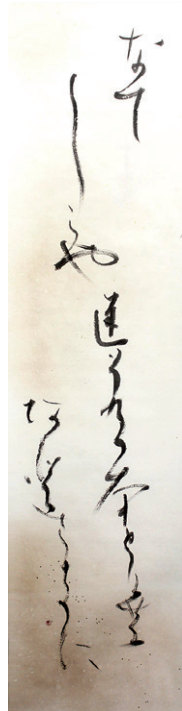
17 孟浩然詩 瀬筒寛之（鹿児島大学教育学部）



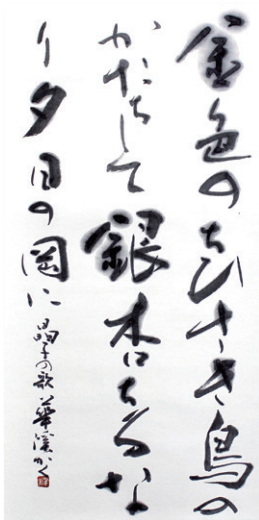
11 董仲舒伝 小林比出代（信州大学）



18 小林一茶の句 染谷慶子（書文化研究会）



12 与謝野晶子の歌 斎木久美（茨城大学）



15 集う「ご同慶の至り」 杉崎哲子（静岡大学）



19 空海詠虚空花喻 田中秀征（徳島県立小松島高等学校）



20 樂以和神 仁之表也 谷口邦彦（安田女子大学）



21 遊藝 張莉（大阪教育大学）



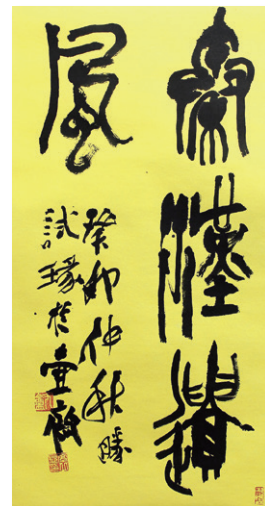
22 無遜色 塚本 宏（和洋女子大学名誉教授）



23 寛仁 津田好一（二松学舎大学）



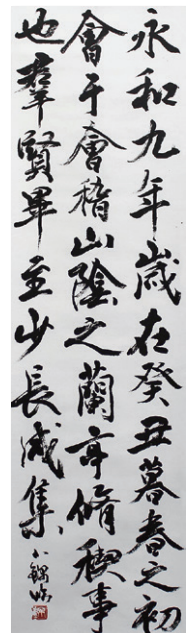
24 秦漢遺風 角田勝久（新潟大学）



25 遠猷 津村幸恵（都留文科大学）



26 臨蘭亭序 寺松 錦（東京学芸大学大学院修士課程）



27 雨晴 徳泉さち（日本大学）



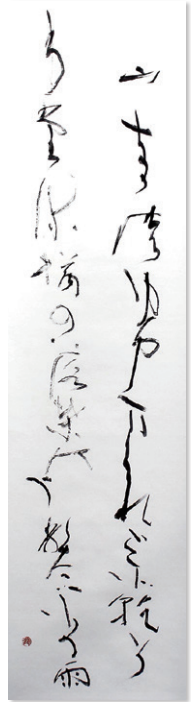
28 わたしは私 豊口和士（文教大学）



29 雲無心 中根安治（岐阜女子大学）



30 斎藤茂吉歌 永由徳夫（群馬大学）



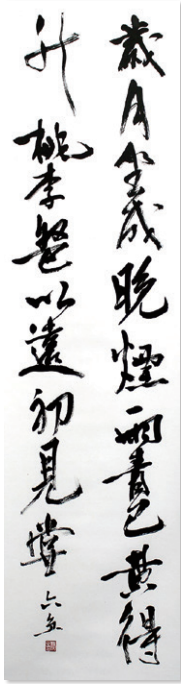
31 彩雲 野中浩俊（新潟大学名誉教授）



32 心外無物 服部一啓（福岡教育大学）



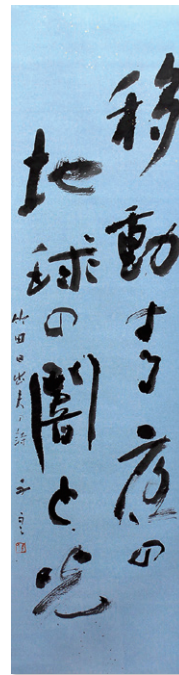
33 黄山谷詩 早川桂央（相模女子大学）



34 融通無碍 樋口咲子（千葉大学）



35 宇宙船からの贈物 廣瀬裕之（武蔵野大学）



36 一二三四五六七八九十 福原真子（総合研究大学院大学博士課程）

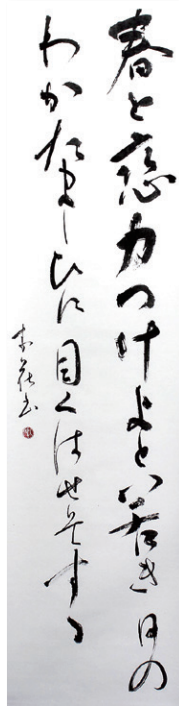


37 抱甕 藤森大雅（大東文化大学）





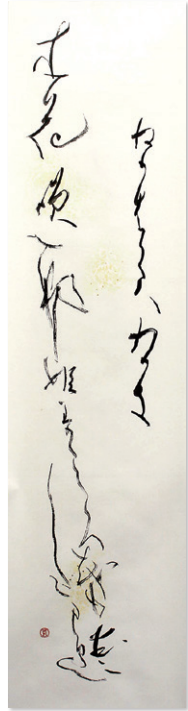
41 旅 松尾 治 (専修大学)



40 与謝野晶子の歌 増田尚子 (東京大学教育学部附属中等教育学校)



39 地 本田容子 (鎌倉女子大学)



38 与謝野鉄幹 穂苅真里子 (十文字学園女子大学)



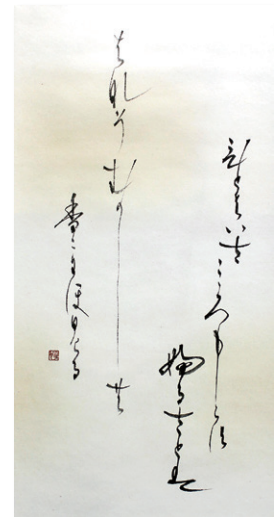
47 月天心 森 哲之 (広島文教大学)



46 わがせこが… 三井忠大 (一般社団法人陽山美術館)



43 手毬花 松本貴子 (大東文化大学)



42 ひとはいさ… 松原直也 (東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)

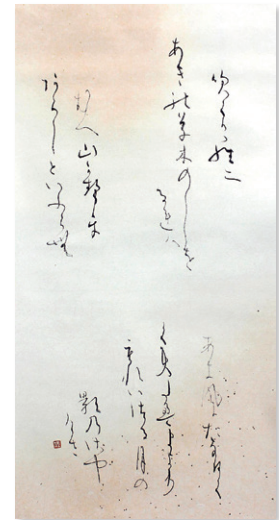


45 咄 三田広美 (武蔵野大学)

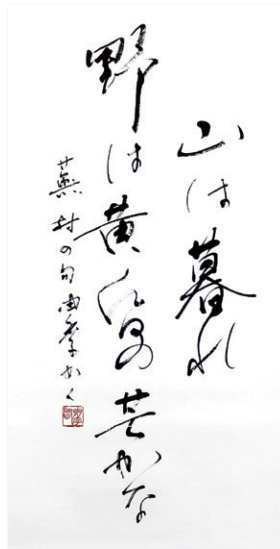


44 アイヌ神謡より 真弓幹子 (香蘭女学校)

48 吹くからに… 柳田さやか(東京芸術大学)



49 与謝蕪村の句 山下由季(日本大学)



50 臨李嶠の詩 山中 仁(札幌国際大学)



51 『論語』子罕 山元宣宏(宮崎大学)



52 賢者後樂此 横田恭三(跡見学園女子大学)



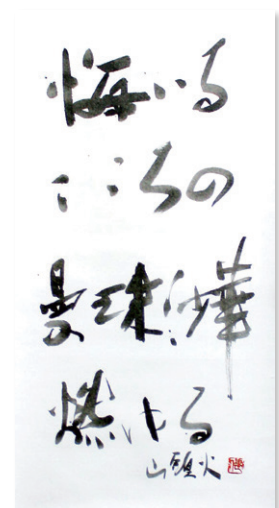
53 神氣 荒井一浩(東京学芸大学付属高等学校)



54 塞翁馬 五十嵐ももこ(東京都立世田谷総合高等学校)



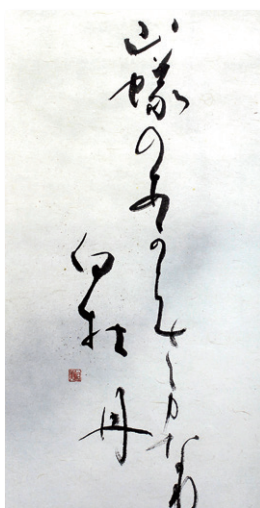
55 種田山頭火の句 石井 健(東京学芸大学)



56 雷鳴 伊藤亜美(跡見学園女子大学)



57 与謝蕪村の句 内山裕美(早稲田大学)

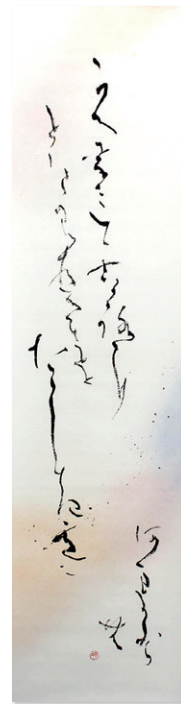




61 査慎行詩
押野加奈 (東京学芸大学付属国際中等教育学校)



60 漢 金文三種
小川博章 (淑徳大学)



59 こころ
大野幸子 (桜蔭中学高等学校)



58 自作の句
太田 剛 (四国大学)

※本号は氏名力行より掲載しました。



東京大会
研究発表



東京大会
会員書作展

長期会員優遇措置について

会 計 局

本会では、令和6（2024）年度より、長期会員への優遇措置を導入いたします。該当される会員は、期限までにお申し出いただくことにより、〈終身会員〉に移行できます。

【規約 改定第十条】 ※下線部追記 令和6年4月1日 一部改正

会員の会費は、年額6,000円、準会員の会費は、年額5,000円とする。ただし、会費未納の場合は、除名することがある。

前年度までに満64歳に達した会員のうち、前年度までに発生した会費（10年分以上）を完納した者は、30,000円を一括納入した場合、以降の会費納入を免除する。

☆令和5（2023）年度までに満69歳以上に達した会員

令和5年度までに発生した会費（10年分以上）を完納した方は、期限までに「長期会員優遇措置」の適用を会計局長宛てに申告（書式・方法任意。但し、生年月・年齢は必ず記入）いただくことにより、〈終身会員〉扱いとなり、令和6年度以降の会費納入を免除します。

☆令和5（2023）年度中に満65歳～満68歳を迎えた会員

令和5年度までに発生した会費（10年分以上）を完納した方は、令和6年度に下記金額を一括納入することにより、令和7年度以降の会費納入を免除することとします（移行措置として、**令和6（2024）年度に限り**実施します）。期限までに「長期会員優遇措置」の適用を会計局長宛てに申告（書式・方法任意。但し、生年月・年齢は必ず記入）いただければ、個別の納入金額を明記した「払込取扱票」を送付します。この納入をもって、令和7年度以降〈終身会員〉扱いとなります。

なお、これは移行措置として令和6（2024）年度に限り実施するものです。対象者が令和7年度以降に一括納入する場合は、年齢によらず30,000円となりますのでご注意ください。

令和5年度中に満65歳を迎えた会員	……24,000円
令和5年度中に満66歳を迎えた会員	……18,000円
令和5年度中に満67歳を迎えた会員	……12,000円
令和5年度中に満68歳を迎えた会員	……6,000円

☆令和5（2023）年度中に満64歳を迎えた会員

令和5年度までに発生した会費（10年分以上）を完納した方は、令和6年度に30,000円を一括納入した場合、令和7年度以降の会費納入を免除することとします。期限までに「長期会員優遇措置」の適用を会計局長宛てに申告（書式・方法任意。但し、生年月・年齢は必ず記入）いただければ、納入金額（30,000円）を明記した「払込取扱票」を送付します。この納入をもって、令和7年度以降〈終身会員〉扱いとなります。

申告期限：2024年3月31日

《ご注意》

- ・「長期会員優遇措置」は自己申告制です。優遇措置適用対象年齢の会員の方で、期限までに申告の無い場合、あるいはご意思により申告なさらない場合は、一般会員扱いのままとし、通常どおりの会費を納入いただきます。
- ・令和5年度までに満70歳以上に達した会員の皆様には、既納入分の返金はありませんので、枉げてご了承くださいますようお願いいたします。
- ・〈終身会員〉扱いの皆様には、毎年6月頃、会員継続の意思を確認するハガキを送付します。2年にわたり返信が確認できなかった場合は、退会したものと見なしますので、ご注意ください。

連絡先（会計局長）：〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学芸術系 尾川明穂研究室内

TEL/FAX 029-853-2717 E-mail: ogawa@geijutsu.tsukuba.ac.jp